

平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	07	項	01	目	04
事務事業名	荒川鉦山跡地管理事務								
担当部署	協和支所市民サービス課	4501000	電話	018-892-3706			内線	156	

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	03:活き活きと希望を持って活躍できるまちづくり
	施策の大綱	04:観光の振興
	施策	02:観光誘客の推進
	施策の内容	01:観光誘客体制の整備
根拠法令等	大仙市荒川鉦山跡地観光施設条例	

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	大仙市協和荒川鉦山の歴史的、文化的遺産の保存及び自然の中でのレクリエーション等の振興を図り、健全な発達並びに観光に資することを目的とする。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	大仙市内外の住民
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	①荒川鉦山跡地の史跡保存(鉦山墓地・選鉦場・シクナー)の管理(草刈業務他) ②オートキャンプ場の管理運営(専用水道配水池ポンプ場の維持管理、芝刈り、管理棟) ③モーターサイクル場の管理運営(指定管理による利用料金の収受、受付案内、施設巡回点検)
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	荒川鉦山の歴史的、文化的遺産の周知と自然の中でのレクリエーション等の振興による青少年の心身の健全な発達。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 荒川鉦山史跡保存管理	件	1	1	1
	② オートキャンプ場管理運営	区画	14	14	14
	③ モーターサイクル場(※附帯施設)	コース	1	1	1
成果 (事業の成果を測る)	① オートキャンプ場の利用者	人	41	6	8
	② モーターサイクル場の利用者	人	1,356	1,248	1,466
	③				
投入コスト	決算額		984千円	484千円	482千円
		一般財源	952千円	480千円	468千円
	人件費		714千円	705千円	713千円
		一般職員の年間従事人数	0.1人	0.1人	0.1人
		一般職員以外の年間従事人数			
	総コスト	(決算額+人件費)	1,698千円	1,189千円	1,195千円

事業を取り巻く環境	荒川鉦山の観光坑道の閉鎖後は、オートキャンプ場の利用客減により低迷しており運営が厳しい状況にある
-----------	--

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	B
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	B
	評価の理由	荒川鉱山の跡地は歴史的、文化的遺産としての保存は必要である。オートキャンプ場は、利用客のニーズに合わなくなってきており、廃止も含め見直しが必要である。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	B
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	
	評価の理由	荒川鉱山跡地の観光坑道内(マインロード荒川)の崩落による閉鎖により来場者が少なくなり、モーターサイクル場の利用者がほとんどのなかで、鉱山跡地の歴史的遺産としての保存活用と若者が利用するモーターサイクル場との共存を図っていく必要がある。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	C
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	
	評価の理由	荒川鉱山跡地内のモーターサイクル場については、H23年度から新たに利用団体を指定管理者として、管理運営することで存続されることとなった。荒川鉱山の跡地は歴史的、文化的遺産として貴重な遺産であるため、今後も後世に引く継ぐため保存すべきである。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	A 現状のまま継続 B 改善しながら継続	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
改善	C 拡大 D 縮小 E 廃止 F 終了	モーターサイクル場が存続されることとなったが、オートキャンプ場の利用頻度は平成21年度から激減していることから廃止を考えていかなければならないが、鉱山跡地を訪れる人のためのトイレ施設(観光坑道管理棟)の存続等を図っていくなど必要な措置を講じていかなければならない。さらに、荒川鉱山跡地保存推進検討委員会を組織し、歴史遺産としての保存活用方法等を検討していく。